

おいらせ町男女共同参画推進会議 会議録

日時	令和5年11月7日(火) 13時54分～15時43分			
場所	おいらせ町役場本庁舎2階 201会議室			
出席者	役職	所属団体	氏名	出欠
	会長	NPO 法人青森県男女共同参画研究所 顧問	田中 弘子	○
	副会長	青森県立百石高等学校 校長	志村 博	○
	委員	おいらせ町人権擁護委員会 委員	柏崎 尚生	○
	委員	社会福祉協議会 事務局長	下田 和樹	○
	委員	おいらせ町保育会 会長	倉館 広美	×
	委員	おいらせ町連合PTA 会長	成田 聖徳	○
	委員	おいらせ町連合町内会 副会長	藤ヶ森 利昭	○
	委員	おいらせ町商工会女性部 副部長	天間 財子	○
	委員	十和田おいらせ農業協同組合 ももいし支店長	小向 武仁	○
事務局 (政策推進課)	柏崎 勝徳 課長	○	川原 真栄子 補佐	○
	三橋 詩音 主事	○	高橋 勝江 保健こども課長補佐	○

会議概要

-修礼-

1. 開会

2. 会長挨拶

本日は風が強く、運転に気を付けないといけませんので、早めに終わられるようにしたいと思いますが、担当の方が困るようないろいろな意見を言ってくださればと思っております。資料をみて、よくこんなにまとめられたなと思っております。連携課の縦の関係、横の関係さらに斜めの関係もこれから必要になりますので、会議を通して、各団体との関係を強く持っていくようによろしくお願いいたします。

3. 案件

(1) 第3次プラン取組の進捗状況及び評価について別紙1

※事務局資料説明

事務局：補足ですが、第3次プランの評価の方の結果ですが、コロナ禍ということで、研修会や対面でするものが行うことができず、0件ということになっております。その結果、周知や啓発のみというものが多くなっています。

会 長：皆さんから意見又は、聞きたいことはありますでしょうか。評価の0件というのを無くしていきたいのが切なる希望です。やはり、プランをないがしろにしないために、実施したものを多くしていくというのが大事なので、0回を1回に、1回を2回に、2回を3回に、するのが大事だと思います。

委 員：Ⅱ安心して暮らせる社会づくりの重点目標7、女性のがん検診で、単年度実施のため、継続を検討していくというのは予算のことですか。

事務局：単年度実施で検討中というのは、この健康教室というのが毎年テーマを変えて行っているため単年度実施という表現になっています。

委 員：附属機関等委員への女性の登用率は、40%になっておりそれなりに女性も手を挙げていると思います。

委 員：イベント行事ごとにみれば女性がリーダーとなっていることが多いです。どうすれば、その人たちを町内会の役員に上手く持っていけるかを考えないと女性の町内会長や幹事になる率というのは、下がる一方だと思います。

事務局長：場面のとらえ方で結構大きいのかと思います。町内会では男性、女性で性別的役割分担意識というのが昔からあると思います。やはり、そういうのが町内会、地域で女性がリーダーになりにくいような慣習があるのではないかと考えています。

会 長：国の考え方が、リーダーになる女性が何人いて、それが、数字に表れるのとそうでないものとの違いがあると思います。国の指針がそうなので、実際に動いている団体の中を見ると男性は働いている方が多いので、女性が日中団体活動する方は多いと思います。女性がたくさん参加してくれるかとなると、また違ってくると思いますので、難しいところです。

事務局：後に紹介しますが、別紙3に「男女の地位の平等について」という問に対して、男女間でこれだけの差が出ています。会長になるだけではなく、この差を少しでも縮められるようにしたいです。

副 会 長：男女共同との絡みにはなりますが、明日、百石高校で男女共同参画の視点による避難所運営訓練が行われます。

事務局長：SDGsの協定を結んでいるATVの方から持ち掛けがありまして、すぐにリーダーになる立

場ということで学校を対象にやりたい旨を百石高校さんをお願いしたところ受け入れていただいたということです。

副会長：ダンボールハウス等ですけど女性のプライバシーを守る場所や小さいお子さんを抱えているお母さんの休憩場所を作ることでそれぞれのニーズに答えられるようにする。こういう経験をさせて、震災、災害はない方がよいと思います。そのような時に率先してできるようになっていただきたいので、こちらからもお願いしました。

会長：皆様、意見ありがとうございました。

(2) 第4次プランの重点目標等事務局(案)について別紙2

(3) 第4次おいらせ町男女共同参画プラン素案の検討別紙3

※事務局(2)、(3)並行して資料説明(重点目標1)

会長：女性リーダーというのは、どこかに派遣しているものですか。

事務局長：八戸圏域で行っていて、研修会に参加したい人が手を挙げて参加するものです。八戸圏域全体では24人ですが、おいらせ町はうち1人です。

会長：もう少し参加しても良さそうと思いますが、予算の関係ですか。

事務局長：圏域で予算を持っているので、何人出ても町の負担はありません。この研修が7回にわたってのものになりますので、子育てしている人や日中に忙しい人だと行きにくい環境だと思われる。さらに、会場が八戸ですので、遠いと感じる方もいたのかもしれない。

副会長：例えばオンラインのオンデマンドでうちに帰ってからも見れるとかそういう講習会なら良さそうです。参集型だと仕事や育児の関係で行けないとかありますので、研修会の在り方を参加しやすいようにしてもらった方がいいと思います。

委員：研修会の案内は広報ですか。

会長：働いている女性は、あまり広報を見ないと思います。広報と合わせて会社の方に文書として流してもいいのではないかと思います。代表の方への理解を示していただくために町長名で出すとかでもいいと思います。

委員：女性部とかありますので、関係している団体に案内を出すとか、そういうのをやれば女性部の会員の人たちでも、次期リーダーとして考えている人もできるのではないかなと思います。

ます。

会 長：女性デジタル人材育成というのもできましたが、意見ある方いますか。

委 員：資格取得っていうのはどういうものですか。

事務局長：何でもいように資格取得として限定はしてないです。例えば、2024年問題でトラックのドライバーが不足する問題がでていますが、女性が2種の免許、大型の免許を取るのに、何か支援するとか、今までなかなか進出していなかったような部分に支援をするとかを考えるとできればと思っています。

会 長：国でもデジタル推進というものが進んでいまして、ある程度国でも予算があるので、勝ち取れるといいですね。

副 会 長：今、町で女性に限らず就労支援等を行っていますか。

事務局長：今のところ町の直営で行っている事業はないです。どこかでやっているものに参加する若しくは周知するとかの活動はあると思います。

副 会 長：青森県内で人口が減っていく中、おいらせ町ではほぼ変わっていないというのは逆に増えているという考えだと思っています。住宅もおいらせ町に建てる方が多くなってきています。小学校、中学校、高校という学びの中で、女性の意識を高める支援をしているというようなアピールがあると定住の地としておいらせ町に来る方々が増えてくると思います。

会 長：子供たちのデジタル化が進んでいくと、付随して危険なことも教えないといけないと思います。そういう意味では、保護者の方がとても興味はあると思います。PTAに働きかけるというものの一つの方法だと思います。

(2) 第4次プランの重点目標等事務局(案)について別紙2

(3) 第4次おいらせ町男女共同参画プラン素案の検討 別紙3

※事務局(2)、(3)並行して資料説明 (重点目標2)

会 長：最近だとワーク・ライフ・バランスに「ケア」がつくようになってきています。今、家族介護が非常に多くなってきています。この介護で、かなりバランスを崩してしまう方が多いです。そういう意味では「ケア」をつける時代ではないかなと思っています。町長がどういふかわからないですが、「ケア」を入れるのは良いと思っています。

事務局長：会長のおっしゃる通り「ケア」を入れることに関して検討いただければと思います。ワーク・ライフ・バランスというのが定着していますので、「ケア」を入れることに関してどうなのかを調べたいと思います。

副会長：仮に「ケア」を入れるとすれば別の空いている所に入れた意図を明記しないと勘違いする方もおられると思います。

会長：国でも推進していくような感じで、悩んでいるみたいですが。国の方でも説明されている部分がありますので、参考にしてはどうでしょうか。

(2) 第4次プランの重点目標等事務局(案)について別紙2

(3) 第4次おいらせ町男女共同参画プラン素案の検討別紙3

※事務局(2)、(3)並行して資料説明(重点目標3)

会長：意見ある方いますか。

委員：おいらせ町町内会や連合会の方でも話すのですが、今働き方改革で定年延長とかで、70歳まで働けるようになっていきます。そのため、各町内会で悩みが多いのは、後継者が育てることができずに、高齢化してしまうことです。

会長：深刻な問題ですよね。PTAの役員をやっている女性を卒業した後に町内会の方にもっていくシステムがあればとてもいいと思います。

委員：過去に女性でPTAをやった後に教育委員会の委員になっている人がいたと存じています。おっしゃった通りPTAの後、地域の町内会でご活躍していただければとてもフィールドとしてはありだと思います。

委員：どこの町内も同じだと思うのですが、男の人だけでなく女の人でも高齢化してきています。若い人達は自分の生活があると思うので、なかなか町内に入ってこないため、人が足りなくなってしまう。そこで、男が女がという前に考え方を少し変えればどちらもちょうど交わり合いよくなるのかなと思います。

会長：ありがとうございます。その他、ありますか。

(4) 第4次おいらせ町DV(配偶者等からの暴力)対策基本計画(案)

※事務局資料説明

会 長：DV はよく聞きますが、実際にあった人の経験を聞いたりしないとわからないですね。

副 会 長：おいらせ町ではないですが、学校の例で話すとき生徒があざとかが作ったときはおかしいよねと思います。本人としてはぶつけたとは言うけどそうではないよねということはありません。学校としても訴えがない限り動けないので、何とかならないかなと思っています。最近よくあるのは、ヤングケアラーです。小さい兄弟がいて面倒を見ていて、宿題や課題をやれずにいる。深刻なのは、本人に自覚がないヤングケアラーです。意思表示がないと学校では何も手が打てない状態です。

会 長：現場だと非常に苦慮しますよね。私も福祉の仕事をした際に、はだして逃げてきた親子を保護した経験があります。一番心配なのが資料 37 ページの「相談しても無駄だと思った」、「どこに相談してよいかわからない」です。宣伝というのも違うがDVについて何かする習慣の垂れ幕や撲滅期間を設けるとか目に触れるような取組をできれば良いと思います。

事務局：おいらせ病院では、町と連携していて、毎年1回の会議をもって通報するシステムがあります。民生委員からの通報とかもあります。委員の人が関わりたくないからという事情で通報が遅れるケースとかもあります。町としても県の方につながる番号を載せたポケットティッシュを配ったり、DVの相談所として名刺サイズのカードを各所に設置したりしています。

会 長：最近、学校ではDVについての講話をやり始めています。若いうちからDVについて考える機会を与えるというのも学校と協力してやってみるとか少しやり方を変えてみるというのも大事だと思います。

委 員：当事者しかわからないので、周りが思っても違ったり、その逆もあり得ると思います。見極めが難しいです。職場でもセクハラ、パワハラに対するヘルプラインというのを設けていますが、誰も電話する人がいません。簡単、気軽とは違いますけど、電話や相談ができるようなPRが必要なのではないかと思います。

7. その他

特になし

8. 閉会

-修礼-